

学級活動（２）学習指導案

指導者 廿日市市立宮園小学校
教 諭 渡邊 圭（Ｔ１）
養護教諭 青野 麻美（Ｔ２）

１ 日時、場所 平成30年 7 月 5 日（木）第 2 校時（10：40～11：25） 第 6 学年 1 組教室

２ 学 年 第 6 学年 1 組（男子12名 女子12名 計24名）

３ 題 材 「宮園小安全プロジェクト ～防ごう！校内のけが～」
内容 （２） イ よりよい人間関係の形成
ウ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成

４ 題材について

（１）児童の実態

所属校は、約30年前に造成された高台の住宅団地内にある。校区内は交通量が少なく、登校時の見守りなど地域の支援も手厚い。また、これまで大きな自然災害等も発生しておらず、児童は安全な環境の中で生活している。そのため、児童は、自分の身の回りは安全だという感覚から、周囲に注意を向けずに行動している姿が見られ、自ら安全に行動しようという意識が低い。

所属校第 6 学年の児童は、平成30年 1 月実施のアセスの結果、要支援領域とされている生活満足感の因子得点が40未満の児童が 9 名、対人的適応の因子得点が14名、学習的適応の因子得点が 5 名おり、他学年に比べ、学校適応感が低いことが分かった。また、昨年度の保健室来室件数も他学年と比較すると多く、不注意や相手意識の弱さによるけがでの来室が見られる。このことにより、クラス全体が落ち着かず、学校生活に不安を抱えている児童が多いため、学校適応感の低下につながっていると考ええる。

児童はこれまでに、体育科「G 保健」の（１）「イ 心の健康」や（２）「ア けがの防止」の保健学習や、特別活動における保健指導等で、危険予測・危険回避や心の健康について、学習している。また、保健室来室時に行う個別指導では、児童のけがの様子から、落ち着きの無さや不注意などの情緒的要因や友人関係などの社会的要因について指導を受けているが、改善が見られていない。これらのことから、危険予測・危険回避の能力や他者と関わる力が十分に育成されていない実態があることが分かった。

（２）題材設定の理由

本題材は、小学校学習指導要領（平成29年告示）第 6 章特別活動に示されている学級活動の内容（２）「イ よりよい人間関係の形成」及び「ウ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成」を扱う。小学校学習指導要領解説（平成29年告示）特別活動編（平成30年）には、「イ よりよい人間関係の形成」の指導内容について、特別活動において自他を尊重する態度を養うことにより、問題行動の未然防止に努めることが大切であり、よりよい人間関係の形成の指導として、社会的スキルを身に付けるための活動を効果的に取り入れ、児童が現実の生活の中で自主的、実践的によりよい人間関係を形成しようとすることができるように配慮する必要があると示されている。「ウ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成」の指導内容について、保健に関する指導として、心身の健康を高める生活・心の健康などが示されており、安全に関する指導として、防犯を含めた身の回りの安全・交通安全・防災など、自分や他の生命を尊重し、危険を予測し、事前に備えるなど日常生活を安全に保つために必要な事柄を理解したり、危険を回避し、安全に行動できる能力や態度を育成したりするなどの内容が示されている。

中央労働災害防止協会（2012）は、危険予知訓練（KYT）とは、作業の状況を描いたイラストシートを使い、作業の状況の中にひそむ「危険要因」とそれを引き起こす「現象」を、小集団で話し合い、危険のポイントや行動目標を決定して、行動する前に安全衛生を先取りする訓練であり、繰り返し訓練することにより一人一人の危機感受性、集中力、問題解決能力、実践への意欲を高めることができると述べている。原洋子、渡邊正樹（2009）は、産業安全の領域で広まってきた危険予測の教育は、児童生徒の危険予測能力の育

成につながる学習内容であると述べている。これらのことから、身近な場面のイラスト等を用いて、自分や周りにどのような危険が潜んでいるか考え、話し合う活動を行う危険予測学習は、児童の危険予測や判断の能力を高めるために適していると考ええる。

小泉令三（2011）は、他者と関わる力について「周囲の人々や集団と良好な関係や関わりをもつ力」として「社会的能力」を定義している。「社会的能力」には、対他者だけでなく、自己をコントロールする力などの対自己の能力も含まれており、どちらも、いじめ、薬物乱用などの問題行動及び不登校の予防的な取組にとって重要な意味をもつと述べている。また、これらのことには、自尊心が深く関係しており、健全な自尊心を育てる必要があると述べている。さらに、「社会的能力」を身に付けるための学習を系統付け、発達段階に合わせた指導を行おうとするのが、社会性と情動の学習（Social and Emotional Learning：以下、「SEL」とする）であると述べている。生徒指導提要（平成22年）では、児童生徒の心の健康はその後の人生の基礎となる重要な課題であり、児童生徒が自分自身を価値ある存在と認め、自分を大切に思う自尊感情を育む視点をもった指導の必要性が示されている。これらのことから、「SEL」の考え方を取り入れ、自尊感情を育み、社会的能力を高めるための指導を行えば、心の健康を保つことができ、問題行動が予防できると考える。

そこで、これまで単発的に行ってきたストレスマネジメント等の心の健康づくりに関する指導と、危険予測学習を組み合わせ、心の健康づくりを取り入れた「危険予測トレーニング」のプログラムを開発・活用することで、児童の危険予測・危険回避の能力及び他者と関わる力、それらを発揮し行動する力を高めることができると考え、本題材を設定した。

指導に当たっては、個人で考えた危険箇所や危険回避の方法を基に、小グループで話し合いながら、より多くの危険箇所や危険回避の方法に気付かせ、危険予測・危険回避の能力を高めたい。また、グループで話し合ったり、全体交流で発表したりした危険回避の方法を踏まえて、自分の安全行動目標を決めることで、自分のこととして捉えさせ実践化につなげたい。さらに、心の健康づくりに関する指導として、批判しない自由な発言を受け入れるなどの、話し合いのルールに沿った活動を取り入れることで、多様な意見があることに気付かせ、協力して話し合うよさを体験させる。このことにより、互いの個性を尊重し合い、協力し合って温かな人間関係を形成しようとする態度を養い、児童が健康で安全な生活を送るために必要な社会的能力を身に付けさせたい。

5 第6学年の評価規準

観 点	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
評 価 規 準	自己の生活の充実と向上に関わる問題に関心をもち、自主的に日常生活や学習に取り組もうとしている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、日常生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることの大切さ、そのための健全な生活や自主的な学習の仕方などについて理解している。

6 本題材のねらい

危険回避の方法について、話し合いのルールに沿ってグループで協力して考える活動を通して、それを踏まえた自分の安全行動目標を決定することができるようにする。

7 事前の指導

時	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と 評価方法
事 前	○話し合いのルールに沿って、「グループみんなの共通点」について話し合う。	◇話し合いのルールについて伝え、「グループみんなの共通点」というテーマで話し合わせることで、他者理解につなげる。	【知識・理解】話し合いのルールに沿って、話し合いを行うことで、多様な意見があることやお互いを尊重することの大切さを理解している。 〔ワークシート〕

8 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点 (◇) 「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て (◆)		資料	目指す児童の姿と評価方法
		T 1 (担任)	T 2 (養護教諭)		
導入 5分	1 雨の日の様子を想起する。	◇雨の日の様子を、写真等を使って想起させ、雨の日の行動について振り返らせる。		雨の日の写真 掲示物（話合いのルール、 「危ないところはどこかな？ ①」のシート）	
	2 本時のめあてを確認する。 3 小グループで話し合う内容と話合いのルールについて確認する。	◇雨の日の危険を防ぐ方法を、みんなで協力して考え、自分の安全行動目標を決めよう。 ◇危険箇所と、危険を回避するための対策を話し合うことを説明する。 ◇グループ学習の形に机を移動するよう指示する。	◇事前指導で行った、話合いのルールを確認し、お互いを尊重し合う雰囲気を醸成する。 話合いのルール 「ヒジ」の“な” ① <u>ひ</u> はん（批判）しない ② <u>じ</u> ゆう（自由）な発言OK ③みんなが <u>な</u> っとく（納得）するまで話し合う。		
展開 1 15分	4 危険箇所と、危険を回避するための対策を小グループで話し合う。	◇小グループに配付した「危ないところはどこかな？①」のシートの中で見付けた危険箇所を枠で囲ませる。また、発見した危険のポイント・対策を短冊に記入させる。 ◇机を元に戻させる。	◆これまでに、けがをしそうになったことや、雨の日に家族の人や先生から注意されたことを想起させる。 ◆グループ学習に入りにくい児童がいるグループには、話合いのルールを再度確認させる。	小グループ用の「危ないところはどこかな？ ①」のシート短冊	【思考・判断・実践】 話合い活動を基に適切な危険回避方法を考え自分の安全行動目標を記入している。 〔行動観察・できたかなカード〕
展開 2 15分	5 小グループで決めた危険箇所と対策を発表する。 6 危険を防ぐための対策を二つに分類した理由を考え、発表する。	◇小グループの「危ないところはどこかな？①」のシート、発見した危険のポイント・対策を書いた短冊を黒板に貼らせる。 ◇発見した危険のポイント・対策を2～3グループに発表させる。	◇児童が貼った対策のうち、「自分の危険を防ぐ行動」には青いマグネットを、「周りの人の危険を防ぐ行動」には赤いマグネットを貼る。 ◇指導者が、マグネットの色を変えて対策を二つに分類した理由について考えさせ、その理由を発表させる。 ◇危険を防ぐ行動には、「自分の危険を防ぐ行動」と「周囲の人の危険を防ぐ行動」の二つがあり、危険を防ぐためには、自分だけでなく、周りの人のことを考えて、行動することが大切であることを理解させる。	マグネット	
終末 10分	7 自分の安全行動目標を決定し、「できたかなカード」に記入する。	◇「できたかなカード」に自分の安全行動目標と、その理由を記入させる。		できたかなカード	

終 末 10 分	◆記述が難しい児童には、小グループで見つけた対策の中から選ぶように助言する。			
	児童の安全行動目標の例 雨の日は、周りをよく見て歩くようにする。 (理由) 雨の日は、かさを持っていて周りが見えにくいので、自分も周りの人もけがをしないようにするため。			
	◇数名に自分の安全行動目標と、設定理由を発表させる。「周りをよく見る」「周りのことを考える」という発言があれば注目させる。	◇自分の安全行動目標について、1週間自己チェックを行うことを伝える。		
	◇話合いのルールを使って、上手に話合いを行うことができたことにより、お互いの意見を大切にして協力的に話し合えたり、一人で考えるよりもたくさんの対策が出せたりしたことを振り返らせ、評価する。			

※心の健康づくり（社会的能力）に関する部分を  で囲む。

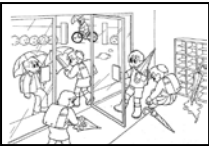
9 事後の指導

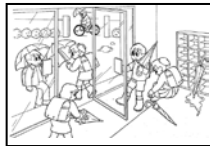
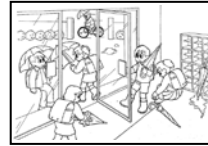
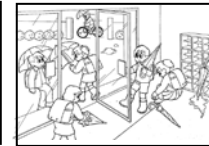
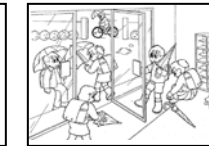
時	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
事後	○自分の安全行動目標について振り返る。 ○ペアで取組を確認し合う。	◇自分の安全行動目標について、振り返る機会を設定する。 ◇取組や、実践して感じたことを、ペアで交流させ、がんばりを認め合わせることで、実践の継続化を図る。	【思考・判断・実践】個人の安全行動目標に沿って、行動している。 〔できたかなカード〕

10 本時の板書計画

宮園小安全プロジェクト ～防ごう！校内のけが～

めあて 雨の日の危険を防ぐ方法を、みんなで協力して考え、自分の安全行動目標を決めよう。



発見した危険のポイントと対策

かさが前が見えず転ぶ	かさをさすときには、前が見えるようにする	かさの先が目当たる	かさの先を上に向けない
水たまりですべる	水たまりに気を付けて歩く	かさから落ちる水ですべりやすくなる	かさ立てに、かさを置く

話し合いのルール
 ひ ひはんしない
 じ じゆうな発言OK
 な なっとくするまで話し合う

危険を防ぐためには、自分だけでなく、周りの人のことも考えて行動することが大切

自分の安全行動目標
 ○雨の日は、周りをよく見て歩くようにする。
 →雨の日は、傘を持っていて周りが見えにくいので、自分も周りの人もけがをしないようにするため。

 ○雨の日は、周りに人がいないところでかさをさす。
 →かさが周りの人の目などに当たるかもしれないから。

自分の危険を防ぐ行動

(自分や) 周りの人の危険を防ぐ行動

学級活動（２）学習指導案

指導者 廿日市市立宮園小学校
教 諭 渡邊 圭（Ｔ１）
養護教諭 青野 麻美（Ｔ２）

１ 日時、場所 平成30年10月11日（木）第２校時（10：40～11：25） 第6学年１組教室

２ 学 年 第6学年１組（男子12名 女子12名 計24名）

３ 題 材 「宮園小安全プロジェクト ～防ごう！インターネットのトラブル～」
内 容 （２） イ よりよい人間関係の形成
ウ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成

４ 題材について

（１）児童の実態

所属校第6学年児童は、平成29年度保健室利用件数が291件と、第3学年児童に次いで多く、不注意や相手意識の弱さによるけがでの来室が見られる。また、平成30年6月実施の学校適応感尺度「アセス」の結果、対人的適応の因子得点が40未満の児童が8人おり、他学年に比べ、学校適応感が低いことが分かった。また、平成30年6月に実施した危険予知訓練（KYT）モデルシートを活用した児童の危険認知に関する課題では、危険な理由や危険回避の方法の理解、潜在的な危険への気付き等に課題があり、危険予測・危険回避の能力が十分に身に付いていないことが分かった。さらに、小学生用SEL－8S自己評定尺度を用いた質問紙調査により、他者と関わる力について実態把握したところ、「他者への気付き」や「対人関係」等の對他者に関する項目では、低い状態とされている偏差値40未満の児童が9人おり、他者に対する社会的能力が十分に身に付いていないことが分かった。

平成29年度青少年のインターネット利用環境実態調査報告書（平成30年、以下「報告書」）では、小学生のスマートフォンの利用率は29.9%と示されている。所属校第6学年児童は、平成29年12月の機器所持アンケート結果から、自分用の携帯電話（スマートフォン含む）を持っている児童が23名中7名（30.4%）おり、全国平均とほぼ同様であることが分かった。また、「報告書」では、小学生の通信機能のあるゲーム機の利用率は49.4%と示されている。所属校第6学年児童では、16名（69.6%）が所持しており、全国平均よりも利用率が高いことが分かった。インターネット等の利用に当たって、これまで、大きなトラブルは起きていないものの、実際に会ったことのない人と連絡を取り合う、オンラインゲームで知らない人と対戦するなど、トラブルに発展する危険性のある使い方をしている実態がある。

さらに、「報告書」では、中学生のスマートフォンの利用率は58.1%と示されており、所属校第6学年児童も、これから中学校へ進学するに当たり、利用率が増え、インターネット等に起因するトラブルが起きる可能性も高くなると考えられる。

（２）題材設定の理由

本題材は、小学校学習指導要領（平成29年告示）第6章特別活動に示されている学級活動の内容（２）「イ よりよい人間関係の形成」及び「ウ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成」を扱う。小学校学習指導要領解説（平成29年告示）特別活動編（平成30年）には、「イ よりよい人間関係の形成」の指導内容について、特別活動において自他を尊重する態度を養うことにより、問題行動の未然防止に努めることが大切であり、よりよい人間関係の形成の指導として、社会的スキルを身に付けるための活動を効果的に取り入れ、児童が現実の生活の中で自主的、実践的によりよい人間関係を形成しようとすることができるように配慮する必要があると示されている。「ウ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成」の指導内容について、保健に関する指導として心の健康が示されている。また、安全に関する指導として、危険を予測し、事前に備えるなど日常生活を安全に保つために必要な事柄を理解したり、危険を回避し、安全に行動できる能力や態度を育成したりするなどの内容が示されている。さらに、情報化やグローバル化等の社会の変化に伴い、児童を取り巻く安全に関する環境も変化していることから、必要な情報を自ら収集し、よりよく判断し行動する力を育むことが重要であると示されている。第2章特別活動の目標には、実際に他者と対面する物理的空間だけでなく、インターネットなどを通じた仮想的空間での他者との関わりも増え、児童は、多様な他者と関わり、今までに経験したことも見たこともない文化に向き合って生きており、人と人の関わり方も変容していく社会において、児童には自立した人間として他者とよりよく協働することができる資質・能力が求められていることが示されている。そのため、これからの社会で多様な他者と関わり合っているためには、寛容さをもち、自己と他者を同時に尊重しながら、異なる意見や考え方をもとに新たな価値を

創造的に生み出す力が求められていると示されている。小学校学習指導要領（平成29年告示）総則には、児童の発達の段階や特性等を考慮し、情報モラルに関する指導を充実することが示されている。

そこで本題材では、児童の実態を踏まえ、インターネット等に起因するトラブルに関するイラストシートを用いた危険予測トレーニングを実施し、小グループで話し合うことを通して、インターネット等では、相手の状況が分からないため「誤解」が生じやすいことに気付かせ、相手の状況を想像し、理解することの重要性に気付かせたい。

指導に当たっては、他者と関わる力を身に付けるためのSEL－8S学習プログラムのうち、「他者への気付き」や「対人関係」に関連する学習を踏まえ、事前の指導で他者との感じ方の違いを体験的に理解させる。本時では、事前の指導を踏まえたインターネット等に起因するトラブルについて考える活動を通して、相手の状況を想像する等、相手のことを思いやることについて考えさせ、対他者に関する社会的能力を高めたい。また、山口県教育委員会（平成27年）が示す「インターネットKYTーインターネット危険予測トレーニング」のイラスト事例を参考に作成したオンラインゲームの画面イラストを使い、トラブルの原因となる箇所を発見させ、その原因や回避方法を小グループで話し合わせ、考えを深めさせることで、危険予測・危険回避の能力を高めたい。

5 第6学年の評価規準

観 点	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
評 価 規 準	自己の生活の充実と向上に関わる問題に関心をもち、自主的に日常生活や学習に取り組もうとしている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、日常生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることの大切さ、そのための健全な生活や自主的な学習の仕方などについて理解している。

6 本題材のねらい

インターネット等に起因するトラブルに関する危険予測トレーニングを行い、小グループで話し合う活動を通して、相手のことを考えた発言や行動をすることが重要であることに気付き、それを踏まえた自分のトラブル防止行動目標を決定することができるようにする。

7 事前の指導

時	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
事前	○インターネット利用に関する「すぐに返信が来ない」などの行動について、友達からされて嫌だと感じる度合いを「イヤかもスケール」に、プロットする。 ○小グループになり、それぞれの「イヤかもスケール」を比較し合い、一人一人嫌だと感じることや、その度合いが異なることを理解する。	◆グループ学習に入りにくい児童がいる、批判的になっている等、相手意識が十分もてていないグループがある場合は、前回行った話し合いのルールを再度確認させる。	【知識・理解】楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、多様な意見や考え方があることや、お互いを尊重することの大切さについて理解している。 〔ワークシート〕

8 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点（◇） 「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て（◆）		資料	目指す児童の姿と 評価方法
		T 1（担任）	T 2（養護教諭）		
導入 5分	1 トラブルの場面のスライドを見て、何故トラブルが起きているのか、ペアで話し合う。	◇トラブルの状況をスライドで示して説明する。 ・下校時：ひろしくんと、たかしくんが仲良く帰っている。 ・翌朝：ひろしくんが、たかしくんに無視されている。 ◆トラブルの状況をペープサートで視覚的に表し、黒板に整理することで、状況を理解させる。	◇ひろしくん、たかしくんのそれぞれの状況をスライドで説明する。 （ひろしくんの状況） ゲームを買ってもらうと	トラブル場面のスライド（電子黒板）、ペープサート	

		◆これまでに自分が経験したことや、周りの人から聞いたことで同じような状況が無いか、想起させる。	きに、食事中はしないという約束をしていた。最近、その約束を破っているの で、昨夜は母親に取り上げられてしまい、ゲームができない状況になってしまった。		
	2 本時のめあてを確認する。	めあて インターネットなどでやりとりをするときのトラブルを防ぐ方法をみんなで考え、自分のトラブル防止行動目標を決めよう。	(たかしくんの状況) 宿題をする時間を考え、8時半までオンラインゲームをしようとひろしくんと約束して、ゲームをした。7時半頃に、突然ひろしくんがオンラインゲームを止めてしまった。		
展開 1 20分	3 トラブルが起きそうな言葉やトラブルが起きないようにするための言動（対策）を小グループで話し合う。 4 各グループで考え方対策を発表する。	◇小グループに配付した「トラブルになりそうなところはどこかな？」シートの中で発見したトラブルが起きないようにするための言動（対策）をワークシートに記入させる。 ◇対策を数多く考えることを伝える。 ◇発見したトラブルが起きそうな言葉や対策を発表させる。	◆グループ学習に入りにくかったり、批判的になったりする児童がいる等、相手意識が十分もてていないグループには、前回行った話合いのルールを再度確認させる。 話合いのルール 「ヒジ」の“な” ① <u>ひ</u>はん（批判）しない ② <u>じ</u>ゆう（自由）な発言OK ③ みんなが<u>な</u>っとく（納得）するまで話し合う。	「トラブルになりそうなところはどこかな？」シート（小グループ用）、「ヒジ」の“な”カード	
展開 2 10分	5 インターネット等でやりとりをするときに大切なことを考える。	◇インターネット等でやりとりをするときには、相手がどんな状況であるか、考えたり確認したりすることが大切であることを理解させる。 ◇実際に他者と対面してコミュニケーションを取る場面でも、同じような事例があることを想起させる。 ・はっきりと断ることができずに誤解が生じた事例を想起させる。 ◇断り方のポイントを使った断り方の例を教師が示す。	◇インターネット等でやりとりをするときには、互いの状況が分からないため、無理なことは、はっきりと断ることが必要であることを確認させる。その際、断り方のポイントを使うとよいことを伝える。 断り方のポイント 「断るのは“こわかー”」 ① <u>こ</u>とわる（はっきりと） ② <u>わ</u>けを伝える ③ <u>か</u>わりの案を伝える	「断り方のポイント」掲示物	

終末 10分	6 自分のトラブル防止行動目標を決定し、「できたかなカード」に記入する。	◇「できたかなカード」に自分のトラブル防止行動目標と、目標の設定理由を記入させる。 ◇数名に自分のトラブル防止行動目標と、目標の設定理由を発表させる。「相手のことを考える」という発言があれば注目させる。 ◇お互いの意見を大切にして協力的に話し合えたことや、相手の立場に立って考えを深めることができたことを振り返らせ、評価する。	◆記述が難しい児童には、小グループで見付けた対策の中から選ぶように助言する。 ◇個人の状況により、実際に他者と対面し、コミュニケーションを取る場面についてでもよいことを伝える。 ◇自分のトラブル防止行動目標について、1週間自己チェックを行うことを伝える。	できたかなカード 【思考・判断・実践】 楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、トラブル回避方法について話し合ったことを基に、自分のトラブル防止行動目標を考え、記入している。 〔行動観察・できたかなカード〕
-------------------	---	--	--	---

※心の健康づくりに関する部分を  で囲む。

9 事後の指導

時	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
事後	○自分のトラブル防止行動目標について振り返る。 ○ペアで取組を確認し合う。 ○断り方のポイントを使ったロールプレイをペアで実施する。	◇自分のトラブル防止行動目標について、振り返る機会を設定する。 ◇取組や、実践して感じたことを、ペアで交流させ、がんばりを認め合わせることで、実践の継続化を図る。	【思考・判断・実践】楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、トラブル回避方法について話し合ったことを基に決めた個人のトラブル防止行動目標に沿って、行動している。 〔できたかなカード〕

10 本時の板書計画

宮園小安全プロジェクト ～防ごう！インターネットのトラブル～

めあて インターネットなどでやりとりをするときのトラブルを防ぐ方法をみんなで協力して考え、自分のトラブル防止行動目標を決めよう。



お母さんの約束



約束は知らない

↓



ゲームを取り上げられてゲームができない



ひろしくんは、自分だけで宿題を先にしようとしたと思っている

↓



返事をしたくても、できなかった

トラブルが起きそうなことと対策

○ひろしくんが約束を破った。
→ちゃんとたかしくん伝えて、ゲームを止めればよかった。
お母さんとの約束をたかしくん伝えてよかった。

○ひろしくんの状況を知らずに、たかしくんが怒った。
→次の日に、学校で理由を聞けばよかった。
たかしくんは、ひろしくんの状況を想像してあげればよかった。

○たかしくんが約束をさせた。
→ひろしくんがたかしくんにきちんと断ればよかった。

インターネットなどでやりとりをするときにも、**相手の状況を考えたり確認したりすることが大切**

自分のトラブル防止行動目標

○友達とオンラインゲームをするときは、お互いに話をしてルールを決める。
→友達も自分も気持ちよくオンラインゲームを楽しむため。

○嫌なことは、わけを伝えて、はっきりと断る。
→相手に伝わっていないと、トラブルの原因になるから。

断り方のポイント

「断るのは“こわー”」

① ことわる（はっきりと）
② わけを伝える
③ かわりの案を伝える



学級活動（２）学習指導案

指導者 廿日市市立宮園小学校
教 諭 渡邊 圭（Ｔ１）
養護教諭 青野 麻美（Ｔ２）

１ 日時、場所 平成30年11月28日（水）第５校時（13：55～14：40） 第6学年１組教室

２ 学 年 第6学年１組（男子12名 女子12名 計24名）

３ 題 材 「宮園小安全プロジェクト ～防ごう！地震のときの危険！～」
内容 （２） イ よりよい人間関係の形成
ウ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成

４ 題材について

（１）児童の実態

所属校は、約30年前に造成された高台の住宅団地内にある。校区内は、造成以降、大きな自然災害が発生していない。「平成30年７月豪雨」の際にも被害が無く、児童は安全な環境の中で生活している。そのため、児童は、自分の身の回りは安全だという感覚が強く、自ら安全に行動しようという意識が低い。

所属校第6学年児童は、平成29年度保健室利用件数が291件と、第3学年児童に次いで多く、不注意や相手意識の弱さによるけがでの来室が見られる。そこで、平成30年６月に、他者と関わる力について、小学生用SEL－8S自己評定尺度を用いた質問紙調査を実施したところ、対他者に関する項目で、低い状態とされている偏差値40未満の児童が９人おり、対他者に関する社会的能力が十分に身に付いていないことが分かった。さらに、危険予知訓練（KYT）モデルシートを活用した危険予測・危険回避の能力に関する実態調査では、危険な理由や危険回避の方法の理解、潜在的な危険への気づき等に課題があった。

これらの実態から、児童が、危険予測・危険回避の能力及び他者と関わる力を身に付け、発揮し行動する力を高めるために、「心の健康づくりを取り入れた『危険予測トレーニング』」を６月から実施している。平成30年11月の危険予測・危険回避の能力に関する実態調査では、児童が発見した危険箇所等の平均個数が、６月と比べ、有意に上昇しており、危険予測・危険回避の能力が高まったことが分かった。また、潜在的な危険を読み取る力も高まりつつあると考える。しかし、避難訓練の事前の指導として、11月に実施した危険予測トレーニングでは、「どう避難するか、先生が指示を出して欲しい。」という意見が出たり、「おはしも」という避難行動の言葉は知っていても、何故そうすべきか分かっていなかったりする様子が見られ、災害時等のこれまで経験していない状況で、安全な行動をとるための力が十分に身に付いているとは言えず、さらに危険予測・危険回避の能力を高めていく必要があると考える。他者と関わる力については、平成30年11月の小学生用SEL－8S自己評定尺度を用いた質問紙調査では、「責任ある意思決定」「生活上の問題防止のスキル」の因子は、有意に上昇していたが、「対人関係」の因子は上昇せず、逆に有意な下降が見られた。依然として、対他者に関する社会的能力に課題があることが分かった。

（２）題材設定の理由

本題材は、小学校学習指導要領（平成29年）第6章特別活動に示されている学級活動の内容（２）「イ よりよい人間関係の形成」及び「ウ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成」を扱う。小学校学習指導要領解説（平成29年告示）特別活動編（平成30年）には、「イ よりよい人間関係の形成」の指導内容について、特別活動において自他を尊重する態度を養うことにより、問題行動の未然防止に努めることが大切であり、よりよい人間関係の形成の指導として、社会的スキルを身に付けるための活動を効果的に取り入れ、児童が現実の生活の中で自主的、実践的によりよい人間関係を形成しようとすることができるように配慮する必要があると示されている。「ウ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成」の指導内容について、保健に関する指導として心の健康が示されている。また、安全に関する指導として、自分や他の生命を尊重し、危険を予測し、事前に備えるなど日常生活を安全に保つために必要な事柄を理解したり、危険を回避し、安全に行動できる能力や態度を育成したりするなどの内容が示されている。さらに、近年でも、東日本大震災や熊本地震、台風や集中豪雨などをはじめとする様々な自然災害の発生に伴い、児童を取り巻く安全に関する環境も変化していることから、必要な情報を自ら収集し、よりよく判断し行動する力を育むことが重要であると示されている。さらに、文部科学省『『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育』（平成22年）では、小学校中学年以降の発達段階においても、普段経験することの少ない場所や状況における潜在的危険の発見は難しいことから、十分な安全指導が必要であると示されている。

そこで、本題材では、所属校の児童の実態を踏まえ、これまで経験していない状況である災害時についての危険予測トレーニングを実施し、もし、災害が起きたときにどのような危険があり、どのように身を守ればよいか、小グループで話し合いを行い、考えさせる。所属校では、11月１日に広島県「みんなで減災」一斉地震防災訓練を実施していることから、今回は地震についての危険予測トレーニングを実施する。

指導に当たっては、他者と関わる力を身に付けるためのSEL－8S学習プログラムのうち、「対人関係」

に関連する学習を踏まえ、事前の指導では、自分の考えをもち、相手に伝えることで、お互いを尊重することの大切さや、多様な意見や考え方があることを理解させる。本時では、自分を守る行動を率先してとることや事前に備えておくことが周りの人を守ることにつながることを理解させる。これらのことを通して、「対人関係」等の対他者に関する社会的能力を高めたい。また、顕在的な危険が起きていない校内の写真を用いることで、地震が起きたらどうなるか想像させ、小グループで話し合う活動を通して、潜在的な危険について読み取る力を高めることにより、危険予測・危険回避の能力を高めたい。

5 第6学年の評価規準

観点	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
評価規準	自己の生活の充実と向上に関わる問題に関心をもち、自主的に日常生活や学習に取り組もうとしている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、日常生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることの大切さ、そのための健全な生活や自主的な学習の仕方などについて理解している。

6 本題材のねらい

地震に関する危険予測トレーニングを行い、小グループで話し合う活動を通して、自分を守る行動を率先してとることや事前に備えておくことが周りの人を守ることにつながることを理解させるとともに、それを踏まえた自分の安全行動目標を決定することができるようにする。

7 事前の指導

時	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と 評価方法
事前	○地震が起きた時の事例（下記）を読み、自分ならどう行動するか、どうしてそう思うかの理由を記述する。 事例 夕方4時10分。あなたは、ちょうど友達のひろしくんと一緒に学校から出てきて、門の前で信号待ちをしていました。そのとき、突然大きな地震が起きました。立ってられないほどの揺れが1分間続きました。そして、「近くににいる児童のみなさんは、体育館へ避難してください。」という放送が入りました。その後しばらく余震が続いています。あなたの家までは、歩いて10分かかります。家では、2年生の妹が先に帰って留守番をしています。あなたは、家に帰りますか？ ○グループになり、「はい」か「いいえ」を書いた紙を一斉に出す。人数が少なかった方から、理由を言う。 ○「はい」「いいえ」それぞれの意見をグループ毎に発表する。	◆相手の気持ちを理解することが苦手な児童が、他者の心情等を理解しやすくするために、電子黒板を使い、状況を視覚的に表す。 ◆グループ学習に入りにくかったり、批判的になったりする児童がいるなど、相手意識を十分もてていない児童のいるグループには、「話し合いのルール」を再度確認させる。 ◇結論は出さず、本時の中でも考えていくことを伝える。	【関心・意欲・態度】災害が起きた時の危険回避の方法について関心をもち、積極的に考えたり、話し合ったりしている。〔ワークシート〕

8 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点（◇） 「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て（◆）		資料	目指す児童の姿と 評価方法
		T 1（担任）	T 2（養護教諭）		
導入 5分	1 地震が起きたらどういう行動をとればよいか、既習事項から想起する。	◇11月1日に実施した、広島県「みんなで減災」一斉地震防災訓練時の児童の様子の映像を見せ、地震の際にどういう行動をとればよいか、既習事項から想起させる。 ・机の下に隠れる。 →上から物が落ちてきたときにけがをしないため。 ・「おはしも」を守る。 ・放送をよく聞く。 ・先生の指示に従う。		電子黒板	

導入 5分	2 本時のめあてを確認する。	◇地震が起きた状況によって、身を守る方法が異なることに気付かせ、いろいろな状況で地震が起きた時の身を守る方法について、考えることを伝える。 めあて 地震から身を守る方法を、みんなで協力して考え、自分の安全行動目標を決めよう。 ◇グループ学習の形に机を移動するよう指示する。	◇前回の避難訓練前の危険予測トレーニング（イラストを使ったもの）で、児童が考えた対策を提示する。 ◇イラストの人物のうち、廊下にいる人は、教室に入って、机の下に隠れるのが本当によいかどうか、考えさせる。 ・教室に入ろうとすると、窓ガラスが割れて落ちてきたり、入り口の本棚や花瓶が倒れてきたりするかもしれない。 ◆地震が起きたときに、どんな危険が起こり得るかイメージしにくい児童がいる場合には、指導者が実際に廊下から教室の中に入る動作を見せ、どんな危険が起こり得るか、考えさせる。 ◇今回の危険予測トレーニングの仕方を説明する。 ①小グループに配付された校内の写真（「休憩時間の廊下」などの時間帯の設定有）から、どのような危険が起きるか想像して、危険だと思う箇所に○をつけ、理由を書いた付箋を貼る。 ②どうやって身を守るかをグループで話し合って決定する。	
展開1 20分	3 危険箇所と、危険を回避するための対策を小グループで話し合う。 4 各グループで考えた危険箇所と、身を守る方法を発表する。	◇小グループに配付した「危ないところはどこかな？」のシートの中で見付けた危険箇所に○をつけさせる。また、対策を付箋に記入させる。 ◇電子黒板上の発見した危険箇所に○をつけさせ、身を守る方法を発表させる。 ・できるだけ廊下の真ん中で、頭を守る姿勢でしゃがむ。 →窓ガラスの近くは割れて危ない。隠れるところが無いので手で頭を守る。 ・給食から離れてしゃがむ。 →皿が割れてけがをしたり、中身が熱くて火傷したりしないようにする。 ・低学年の人に声をかけて、一緒に机の下に隠れる。	◆グループ学習に入りにくかったり、批判的になったりする児童がいるなど、相手意識が十分もてていない児童のいるグループには、前回行った話し合いのルールを再度確認させる。 話し合いのルール「ヒジ」の“な” ①ひはん（批判）しない ②ひゅう（自由）な発言OK ③みんながなっとく（納得）するまで話し合う。 ◇児童が考えた身を守る方法を、「自分を守る行動」と「(自分と)周りの人を守る行動」に分類して板書する。 ◇体育館などの隠れるものや頭を守るものが無い場所では、「姿勢を低くして、手などで頭を守る」ことが大切であることを確認する。 ◆「周りの人を守る行動」が出なかった場合には、展開2の「事前の指導」の事例の中に限定して、「周りの人のことを考える」という視点に気付かせる。	小グループ用の「危ないところはどこかな？」のシート 付箋

		◇地震が起きた時間帯や場所によって、その場にあった身の守り方を考える必要があることを確認する。			
展開 2 15分	5 災害の時に自分も周りの人も守るためにはどうしたらよいか考える。	 ◇指導者が分類して板書した理由について考えさせ、その理由を発表させる。 ・「自分を守る行動」と「(自分と)周りの人を守る行動」 ◇既習事項から、けがやトラブルを防ぐには、周りの人のことも考えることが大切であったことを想起させる。 ◇「事前の指導」の事例について、もう一度考えさせる。 【事例】のときに、「体育館に避難する方がよい」のか「家に帰る方がよい」のか、もう一度考えよう。 ◇T1は、「体育館に避難する方がよい」という視点で、児童の発言を促す。 ・まずは、自分を守ることが大切。 ・家まで辿り着けるかわからない。 ・家は安全ではないかもしれない。 ・自分が避難すれば、友達のひろしくんも体育館と一緒に避難するので、周りの人を守る行動になっている。 ◇実際に災害が起きているときには、「自分」も「周りの人」も両方守るのは難しいことに気付かせる。 ◇児童から、「どちらも守る方法があればよい」という意見が出たら、どうすればどちらとも守れるか、グループで考えさせる。 ・自分は体育館に避難する。 ・妹も自分で自分の命を守ればよい。 ・そのためには、どうするかを教えておく。(隣の家に逃げる。学校へ避難する等) ・家族で逃げる場所を決めておく。 ・タンスや本棚が倒れないようにしておく。	◇指導者が分類して板書した理由について考えさせ、その理由を発表させる。 ・「自分を守る行動」と「(自分と)周りの人を守る行動」 ◇既習事項から、けがやトラブルを防ぐには、周りの人のことも考えることが大切であったことを想起させる。 ◇「事前の指導」の事例について、もう一度考えさせる。 ◇T2は、「家に帰る方がよい」という視点で、児童の発言を促す。 ・周りの人、大切な家族を守る行動をとる方がいい。 ・妹が心配。 ・自分より小さい妹だから、守らないといけない。 ◆相手の気持ちを理解することが苦手な児童が、他者の気持ちを理解しやすくするために、登場人物の表情イラストを使い、登場人物の気持ちを視覚的に表す。 ◇「津波（命）てんでんこ」という言葉を使い、児童から出た意見をまとめ、確認する。 「津波（命）てんでんこ」 ：三陸地方で伝えられている言葉で、家族や友達は避難していると信頼して、各自がてんでんばらばらに逃げ、自分の命を守れという教え。	電子 黒板	

		◇危険が起こった時に安全な行動がとれるように、日頃から心掛けることを考えさせる。 ・放送が鳴った時には、静かにするように周りの人に言う。 ・朝、家の人と、今日の予定を確認する。	◇自分を守る行動を率先してとることや事前に備えておくことが周りの人を守ることにつながること理解させる。	【思考・判断・実践】 楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、地震の時の身の守り方について話し合ったことを基に、自分の安全行動目標を考え、記入している。 〔行動観察・できたかなカード〕
終末 5分	6 自分の安全行動目標を決定し、「できたかなカード」に記入する。	◇「できたかなカード」に自分の安全行動目標（普段の生活の中で気を付けること）と、その理由を記入させる。 ◆記述が難しい児童には、友達が発表した意見の中から選ぶように助言する。 児童の安全行動目標の例 朝、家族と話をし、今日の家族の予定を聞いておく。 (理由) もし、災害が起こっても、家族全員が無事に過ごすために、それぞれが自分を守る行動がとることができるから。 放送が鳴った時には、静かにするように周りの人に言う。 (理由) 周りの人を守るため。 ◇数名に自分の安全行動目標と、設定理由を発表させる。	◇自分の安全行動目標について、1週間自己チェックを行うことを伝える。	できたかなカード

※心の健康づくりに関する部分を  で囲む。

9 事後の指導

時	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
事後	○自分の安全行動目標について振り返る。 ○ペアで取組を確認し合う。 ○よいところを褒めるコメントを書いて返す。	◇自分の安全行動目標について、振り返る機会を設定する。 ◇取組や、実践して感じたことを、ペアで交流させ、がんばりを認め合わせることで、実践の継続化を図る。	【思考・判断・実践】楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、地震の時の身の守り方について話し合ったことを基に決めた個人の安全行動目標に沿って、行動している。 〔できたかなカード〕

10 本時の板書計画

宮園小安全プロジェクト ～防ごう！地震の時の危険！～

めあて 地震から身を守る方法を、みんなで協力して考え、自分の安全行動目標を決めよう。

地震から身を守る方法

- ・できるだけ廊下の真ん中で頭を守りながらしゃがむ。
- ・給食から離れてしゃがむ。
- ・低学年の人に声をかけて一緒に机の下に隠れる。

自分を守る行動

(自分や) **周りの人**を守る行動

自分の安全行動目標

津波(命) てんでんこ

あなた

率先して自分を守る

近くにいる友達 「あなた」を見て一緒に避難する。

別の場所にいる家族 災害が起こる前に、備えておく。

自分を守る行動を率先してとることや、事前に備えておくことが周りの人を守ることにつながる。

日頃から心掛けることは？

- ・放送が鳴った時には、静かにするように周りに言う。
- ・朝、家の人と、今日の予定を確認する。

朝、家族と話をし、今日の家族の予定を聞いておく。
→もし、災害が起こっても、家族全員が無事に過ごすために、それぞれが自分を守る行動がとることができるから。
放送が鳴った時には、静かにするように周りの人に言う。
→自分も周りの人も守るため。

学級活動（２）学習指導案

指導者 廿日市市立宮園小学校
教 諭 渡邊 圭（Ｔ１）
養護教諭 青野 麻美（Ｔ２）

１ 日時、場所 平成30年12月13日（木）第３校時（10：40～11：25） 第6学年１組教室

２ 学 年 第6学年１組（男子12名 女子12名 計24名）

３ 題 材 「宮園小安全プロジェクト ～みんなで防ごう！宮園小の危険～」
内容 （２） イ よりよい人間関係の形成
ウ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成

４ 題材について

（１）児童の実態

所属校は、約30年前に造成された高台の住宅団地内にある。校区内は、造成以降、大きな自然災害が発生していない。「平成30年７月豪雨」の際にも被害が無く、児童は安全な環境の中で生活している。そのため、児童は、自分の身の回りは安全だという感覚が強く、自ら安全に行動しようという意識が低い。

所属校第6学年児童は、平成29年度保健室利用件数が291件と、第3学年児童に次いで多く、不注意や相手意識の弱さによるけがでの来室が見られる。平成30年６月に、他者と関わる力について、小学生用SEL－8S自己評定尺度を用いた質問紙調査を実施したところ、対他者に関する項目で、低い状態とされている偏差値40未満の児童が９人おり、対他者に関する社会的能力が十分に身に付いていないことが分かった。また、危険予知訓練（KYT）モデルシートを活用した危険予測・危険回避の能力に関する実態調査では、危険な理由や危険回避の方法の理解、潜在的な危険への気付き等に課題があった。

これらの実態から、児童が、危険予測・危険回避の能力及び他者と関わる力を身に付け、発揮し行動する力を高めるために、「心の健康づくりを取り入れた『危険予測トレーニング』」を６月から実施している。平成30年11月の危険予測・危険回避の能力に関する実態調査では、児童が発見した危険箇所等の平均個数が、６月と比べ、有意に上昇しており、危険予測・危険回避の能力が高まったことが分かった。また、潜在的な危険を読み取る力も高まりつつあると考える。しかし、避難訓練の事前の指導として、11月に実施した危険予測トレーニングでは、「どう避難するか、先生が指示を出して欲しい。」という意見が出たり、「おはしも」という避難行動の言葉は知っていても、何故そうすべきか分かっていなかったりする様子が見られ、災害時等のこれまで経験していない状況で、安全な行動をとるための力が十分に身に付いているとは言えず、さらに危険予測・危険回避の能力を高めていく必要があると考える。また、他者と関わる力については、平成30年11月の小学生用SEL－8S自己評定尺度を用いた質問紙調査では、「責任ある意思決定」「生活上の問題防止のスキル」の因子は、有意に上昇していたが、「対人関係」の因子は上昇せず、逆に有意な下降が見られた。依然として、対他者に関する社会的能力に課題があることが分かった。

（２）題材設定の理由

本題材は、小学校学習指導要領（平成29年告示）第6章特別活動に示されている学級活動の内容（２）「イ よりよい人間関係の形成」及び「ウ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成」を扱う。小学校学習指導要領解説（平成29年告示）特別活動編（平成30年）には、「イ よりよい人間関係の形成」の指導内容について、特別活動において自他を尊重する態度を養うことにより、問題行動の未然防止に努めることが大切であり、よりよい人間関係の形成の指導として、社会的スキルを身に付けるための活動を効果的に取り入れ、児童が現実の生活の中で自主的、実践的によりよい人間関係を形成しようとすることができるように配慮する必要があると示されている。「ウ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成」の指導内容について、保健に関する指導として心の健康が示されている。安全に関する指導として、自分や他の生命を尊重し、危険を予測し、事前に備えるなど日常生活を安全に保つために必要な事柄を理解したり、危険を回避し、安全に行動できる能力や態度を育成したりするなどの内容が示されている。また、異年齢の児童等、多様な他者と対話しながら協働することを通して自分の考えを広げたり、自分のよさやがんばりに気付き自己肯定感を高めたりすることなど、様々なかわりを通して感性を豊かにし、よりよい意思決定ができるような資質・能力を育成することが、特別活動における対話的な学びとして重要であると示されている。

小泉令三（2011）は、対人関係能力は、実際の学校生活の中で活用し、対人関係がよりよくなることを体感することで、児童自身がその成長に気付くものであるため、取組を通して獲得した他者に対する思いやりの行動や対人関係能力を発揮できる場を、他学級・他学年の児童へ広げていくことや、教師が適切なフィードバックを継続的に行うことが必要であると述べている。

そこで、本題材では、所属校の児童の実態を踏まえ、対他者に関する社会的能力を発揮する活動として、宮園小安全プロジェクトで学習したことを低学年の児童に伝える活動を実施する。

指導に当たっては、他者と関わる力を身に付けるためのSEL－8S学習プログラムのうち、「対人関係」

に関連する学習を踏まえ、他者意識をもち、相手に伝えるにはどうすればよいかを考えさせるとともに、実際に低学年の児童に伝える活動を通して、第6学年児童の自己肯定感を高め、自らの成長を実感させたい。具体的には、事前の指導では、低学年の児童に話しかける場面を想定したペアでのロールプレイを実施し、どうすれば低学年の児童に分かりやすく伝えられるか、体験的に学習させる。これを基に、本時では、他者意識をもった伝え方や、低学年の児童に伝える内容を考えさせる。事後の指導では、低学年の児童に伝える活動を行い、その振り返りを行う。

また、これまでの学習を踏まえた自分の安全行動目標を決定することを通し、自分や周りの人の安全について考えて行動することの大切さを再認識させるとともに、安全への意識を高め、危険予測・危険回避の能力を高めたい。

5 第6学年の評価規準

観 点	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
評 価 規 準	自己の生活の充実と向上に関わる問題に関心を持ち、自主的に日常生活や学習に取り組もうとしている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、日常生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることの大切さ、そのための健全な生活や自主的な学習の仕方などについて理解している。

6 本題材のねらい

小グループで話し合い、宮園小安全プロジェクトで学習したことを安全行動の標語やキーワードにまとめ、低学年の児童に分かりやすく伝える活動を通して、自分や周りの人の安全について考えて行動することの大切さを理解し、それを踏まえた自分の安全行動目標を決定することができるようにする。

7 事前の指導

時	児童の活動	指導上の留意点 (◇) 「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て (◆)	目指す児童の姿 と評価方法
事前	○宮園小安全プロジェクトで学習したことを低学年の児童に伝える活動を実施する意義をもたせる。 ○低学年の児童に話しかける場面を想定し、ペアでロールプレイを行うことを通して、低学年の児童に分かりやすく伝えるためには、どうすればよいか考える。 ○児童が発表した低学年の児童に分かりやすく伝えるための方法を踏まえて、もう一度ロールプレイを行う。	◇「宮園小安全プロジェクト～防ごう！地震のときの危険！～」の授業で学習した、「事前に備えておくことが周りの人を守ることにつながる」ということを通して、宮園小全体の安全のために、宮園小安全プロジェクトで学習したことを低学年の児童に伝える意義を理解させる。 ◇低学年の担任から、「低学年の人に分かるように伝えてほしい」と言われたことを児童に伝え、分かりやすく伝えようとする意欲を高める。 ◇掃除の仕方が分からずに困っている低学年の児童に、掃除の仕方を教える場面を想定し、ペアでロールプレイを行う。 ◆相手意識をもちにくく、低学年の児童に話しかける場面が想定しにくい児童には、ロールプレイで、聞き手役（低学年の児童役）になることを通して、どうすれば、低学年の児童が分かりやすく感じるかを考えさせる。 ◇低学年の児童に分かりやすく伝えるためにはどうすればよいか、ロールプレイを通して考えたことを発表させる。 ・低学年の人に分かる言葉で伝える。 ・短い言葉で伝える。 ・相手が分かっているか、相手の表情を確認しながら伝える。 ・具体的に動作をしながら伝える。 ◆相手意識をもちにくく、低学年の児童に話しかける場面が想定しにくい児童には、低学年の児童に分かりやすく伝えるための方法を確認し、ペアの児童や指導者がモデルを示した上で、再度ロールプレイを行わせる。	【関心・意欲・態度】宮園小全体の危険を防ぐために、宮園小安全プロジェクトで学習したことを低学年の児童に伝える活動に関心を持ち、積極的に考えたり、話し合ったりしている。〔行動観察・ワークシート〕

8 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点 (◇) 「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て (◆)		資料	目指す児童の姿と評価方法
		T 1 (担任)	T 2 (養護教諭)		
導入 10分	1 宮園小安全プロジェクトで学習したことを振り返る。	◇これまで宮園小安全プロジェクトで学習したことを、スライドを使って想起させる。	◇学習を振り返る材料として、これまでに記述したワークシートや「できたかなカード」を配付する。	電子黒板	【思考・判断・実践】 宮園小全体の安全のために、これまで学習したことを低学年の児童に伝えるための方法をグループで話し合い、それを基に、低学年の児童に伝えるときに気を付けることを自己決定し、記入している。〔行動観察・グループ用ワークシート〕
	2 本時のめあてを確認する。	めあて 宮園小みんなの安全のために、これまで学習したことを、低学年の人に分かりやすく伝えるために、みんなで協力して、標語やキーワードにまとめよう。		これまでの「できたかなカード」、掲示物	
		◇今回の話合いの方法を説明する。	◆見通しがもちにくい児童のために、話合いの流れを黒板に掲示する。	画用紙	
		①宮園小安全プロジェクトで学習したことの中から、低学年の児童に伝えたいことを一つにしぼる。 ②①の内容を基に、標語やキーワードを考える。 ③画用紙にまとめる。(必要な班) ④低学年の児童に伝えるには、どんなことに気を付けたらよいかを考える。 ⑤話合いの中で考えた標語やキーワードを、低学年に伝えることを想定しながら、隣のグループに説明する。聞き手のグループは、発表グループのワークシートにアドバイスを記入する。 *①②④⑤はグループ用ワークシートに記入する。		マジック	
展開1 20分	3 宮園小安全プロジェクトの学習の中から、低学年の児童に伝えたいことを小グループで話し合い、伝えるための標語やキーワードを考える。	◇宮園小安全プロジェクトの学習の中から、低学年の児童に伝えたいことを小グループで話し合い、伝えるための標語やキーワードを考えさせる。 ◆相手意識をもちにくく、低学年の児童に伝えるにはどうすればよいか考えにくい児童がいるグループには、事前の指導で学習した低学年の児童に分かりやすく伝える方法を想起させる。	◆グループ学習に入りにくかったり、批判的になったりする児童がいるなど、相手意識が十分もてていない児童のいるグループには、前回行った話合いのルールを再度確認させる。 話合いのルール「ヒジ」の「な」 ①ひはん(批判)しない ②ひゆう(自由)な発言OK ③みんながなっとく(納得)するまで話し合う。	グループ用ワークシート	
	4 グループで考えた標語やキーワードについて、隣のグループと説明し合う。	◇話合いで考えた、標語やキーワードを隣のグループに説明させる。その際、グループで考えた「低学年の人に伝えるときに気を付けること」を、聞き手のグループに伝えさせる。 ◇聞き手のグループには、「低学年の人に伝えるときに気を付けること」ができていたかどうかや、参考になった点を、発表したグループのワークシートに記入させ、アドバイスさせる。	◆相手意識をもちにくく、低学年の児童に伝えるにはどうすればよいか考えにくい児童がいるグループには、事前の指導で学習した低学年の児童に分かりやすく伝える方法を想起させる。	グループ用ワークシート	
終末 5分	5 「低学年に伝える活動」において気を付けることを自己決定する。	◇グループでの話合いや、聞き手のグループからのアドバイスを基に、「低学年に伝える活動」において気を付けることを、自己決定させる。	◇宮園小安全プロジェクトでの学習を振り返り、身に付いた社会的能力等について児童を称賛する言葉掛けを行い、「低学年の児童に伝える活動」に意欲的に取り組めるようにする。		

※心の健康づくりに関する部分を で囲む。

9 事後の指導

時	児童の活動	指導上の留意点（◇） 「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て（◆）	目指す児童の姿と 評価方法
事後1	○「低学年の児童に伝える活動」を行う。	◇3グループに分かれて、第1学年、第2学年1組、第2学年2組の各教室で説明を行う。 ◇低学年の児童に感想を聞く。	【関心・意欲・態度】宮園小全体の危険を防ぐために、宮園小安全プロジェクトで学習したことを低学年の児童に伝える活動に関心をもち、低学年の児童に分かるように説明しようとしている。〔行動観察〕
事後2	○「低学年の児童に伝える活動」の振り返りを行い、グループで共有する。 ○宮園小安全プロジェクトで学習したことを基に、自分の安全行動目標を決定する。	◇相手のことを考えた伝え方で発表する等、学習した対他者に関する社会的能力を発揮できていた場面を取り上げ、称賛する。 ◆記述が難しい児童には、これまで自分が考えた安全行動目標の中から、選ぶように助言する。	【思考・判断・実践】楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、宮園小安全プロジェクトで学習したことを基に、自分の安全行動目標を考え、記入している。 〔できたかなカード〕
児童の安全行動目標の例：周りをよく見て行動し、危険を発見したら、周りの人にも伝える。 （理由）自分や周りの人のけがを、事前に防ぐため。 災害が起きた時に、どうすれば身を守れるか考え、家族と話し合っておく。 （理由）自分の命を守り、家族も無事でいられるように、事前に備えておくため。			
事後3	○事後2の活動で決定した自分の安全行動目標について振り返り、ペアで確認し合う。 ○ペアの人の頑張りに対する称賛のメッセージを「がんばったねカード」に記入する。 ○これまでの学習で身に付けたことをもう一度確認し、指導者からのコメントと修了証を受け取る。	◇自分の安全行動目標について、振り返る機会を設定する。 ◇ペアで頑張りを認め合わせたり、「がんばったねカード」を掲示してそれぞれの児童の頑張りを学級全体で共有して認め合わせたりすることにより、自己肯定感を高め、実践の継続化を図る。 ◇これまでの学習の足跡を確認させ、修了証を渡すことで、児童に達成感を味わわせ、実践を継続する意欲を高める。	【思考・判断・実践】楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、宮園小安全プロジェクトで学習したことを基に決めた個人の安全行動目標に沿って、行動している。 〔できたかなカード〕

10 本時の板書計画

宮園小安全プロジェクト～みんなで防ごう！宮園小の危険！～	
めあて 宮園小安全プロジェクトで学習したことを、低学年の人に分かりやすく伝えるために、みんなで協力して考え、標語やキーワードにまとめよう。 低学年の人に伝えるためには ・大きい声でゆっくり言う。 ・低学年の人が分かる言葉で伝える。 ・動作を付けて伝える。 ・画用紙に書いて、指さしながら伝える。 ・目線を合わせて話す。 ・内容が分かっているか、相手の表情を確認する。 ・やさしい話し方で伝える。	今日の話し合いの流れ ①学習したことの中から、伝えたいことを一つにしぼる。 ②標語やキーワードを考える。 ③画用紙にまとめる。（必要な班） ④低学年の人に伝えるには、どんなことに気を付けたらよいかを考える。 ⑤隣のグループに説明する。 聞き手のグループは、アドバイスを記入する。 これまでの学習の振り返り けがをしないためには、自分だけでなく、 周りの人のことも考えて行動することが大切 インターネットなどでやりとりをするときにも、 相手の状況を考えたり確認したりすることが大切 自分を守る行動を率先してとることや、 事前に備えておくことが 周りの人を守ることにつながる。